



## 新任のご挨拶



内科(神経内科)  
ふるや ひろかず  
古谷 博和

### 神経内科学教室のスタート

平成25年9月1日付で老年病・循環器・神経内科学講座の神経内科教授を拝命いたしました古谷と申します。

私は昭和57年に鹿児島大学を卒業しましたが、在学中から神経内科教室主催の僻地巡回診療などの行事に参加し、ベッドサイドで少ない診療器具を使って非常に多くの情報を得る診療技術に感銘を受け、神経内科医としての道を志しました。その後出身地である福岡の九州大学神経内科学教室に入局し、そこで日本の神経内科の創始者である故・黒岩義五郎教授をはじめとする諸先輩方から神経学の基本を教えていただき、縁あって九州大学の遺伝情報研究施設の榊佳之教授(現・豊橋技術科学大学学長)の下で当時最新の遺伝子工学の技術を学ぶ機会も得て、米国国立衛生研究所(NIH)に留学し、現在のテーラーメイド医療のはしりであるゲノムのポリモルフィズムと薬剤耐性の研究を行うことになりました。帰国後基礎研究の道が続けるかどうか悩んだ時期もありましたが、やはりベッドサイドでの診療の魅力が忘れられず、臨床に戻ることにしました。その後九州大学神経内科の助教授時代に「脳卒中ホットライン」を立ち上げ、日本の高齢化を10年先取りする福岡県大牟田市の国立病院機構大牟田病院で臨床研究部長として「認知症医療センター」をスタートし、神経筋

難病診療や地域医療を行ってきました。

神経内科はこれまで「わからないか(内科)」、「なおらないか(内科)」とからかわれることが多かったのですが、「あきらめないか(内科)」でもあると言い張って頑張ってきたことで、ずいぶん多くの難病の病態が解明され、それと同時にパーキンソン病やアルツハイマー病などで病気の進行を遅らせる治療も開発されつつあり、今後iPS細胞等の最先端医療技術の恩恵を最も受ける診療科になると思われます。一方、ベッドサイドで一つ一つの症例を丁寧に診察することで非常に多くの情報を得ることが出来ますから、一人の患者さんを長く診て行く在宅訪問診療や僻地医療に役立つ診療科でもあります。そして私の仕事は、このようなベッドサイドでのいわばマクロの医療と、最先端の分子生物学的技術を駆使したミクロの医療との橋渡しをすることだと考えており、その際、作家の井上ひさしさんの「難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことを面白く、面白いことをまじめに」の精神をモットーに、神経内科の技術や診察方法、考え方を次の世代に引きついで行きたいと思っています。

ゼロからの出発とはいえ、当院ではこれまで老年科で神経内科を扱っており、優れた講師の方々がいらっしゃいますので、小さい診療科ながら協力して診療、教育、臨床研究を発展させてゆきたいと考えております。

今後ともご指導、ご鞭撻の程、よろしく願いいたします。



精神科  
もりのぶ しげる  
森信 繁

### 神経精神科学講座教授就任のご挨拶まで

このたび、平成25年9月1日付けで、高知大学医学部神経精神科学の教授を拝命いたしました。何卒、宜しくお願い申し上げます。

私は昭和57年に山形大学を卒業後、同大精神神経医学教室に入局すると同時に大学院にも進学いたしました。附属病院で精神医療に従事すると同時に、薬理学教室でうつ病の病態解明を目的とした精神薬理学研究を行いました。大学院卒業後は平成4年から25ヶ月間でしたが、米国Yale大学分子精神医学部門に留学しまして、脳由来神経栄養因子(BDNF)と抗うつ薬やストレスの研究に従事しました。帰国後は滋賀医科大学を経て、平成12年から郷里の広島大学に転勤し、うつ病のバイオマーカー開発を目指しBDNF遺伝子のメチル化やPTSDの新規治療法の開発など、エビデンス的な分野の研究に取り組んで参りました。

ご存知の皆様も多いかと存じますが、気分障害患者数がわが国では1996年には433千人であったものが2008年には1,041千人と倍増しております。同時にわが国では年間の自殺

者数が、平成10年から23年まで毎年3万人超という問題があり、この原因にもうつ病の関与が指摘されております。高知県の実情も極めて深刻で、中央東福祉保健所管内の自殺者数は全国平均のほぼ倍にもなります。このようなうつ病・自殺対策には、地域の保健師やかかりつけ医と大学病院との連携が重要であり、患者予備軍を孤立させないネットワーク作りに努力したいと考えております。

うつ病をはじめ精神疾患の診断は、特異的なバイオマーカーが未発見のため、現在も臨床症状の観察から成されております。このため薬物治療アルゴリズムも未開発で、新規治療薬の開発の遅れにも繋がっております。このような心の病を巡る諸問題を少しでも解決していくためには、教室員をはじめ同門の先生方と一致団結しまして、脳科学・分子生物学・心理学など包括的な視点からの疾患研究が必要と考えております。

浅学非才な私にとりまして神経精神科学教室を主宰しますことは、荷の重い仕事ではありますが、精神疾患の解明を目指しまして教室が実りある組織として躍動しますよう、学内の多くの皆様のご指導、ご鞭撻を、何卒宜しくお願い申し上げます。

**研 修 医**

**紹 介**

卒後臨床研修センター



さ さ き ゆうし  
佐々木 雄志

高知県、高知大学出身の佐々木雄志と申します。大学卒業後も高知でお世話になってます。先生方、スタッフの皆様、良き同期にも恵まれ充実した毎日を過ごすことが出来ております。  
一生懸命頑張りますので今後とも宜しくお願い致します。



え だ まさし  
江田 雅志

生まれは沖縄、育ちは北海道、高知に住んで7年目と日本縦断生活を送ってきました。将来は内科医を希望しており、2年間の研修では多くの患者さん・医師・医療スタッフと出会い成長していければと思っております。ご指導・ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。



つ だ あつし  
津田 敦

私は大篠小学校、香長中学校卒の南国市民で、その後は土佐高校卒→浪人→広島大学法学部卒→浪人→高知大学医学部卒と少々回り道をして現在高知大学で研修させていただいております。患者さんの健康のため、また職場の各業種の先輩方のお力になれるよう務めてまいりますので、今後ともご指導の程よろしく願いいたします。



かわぐち じゅり  
川口 樹里

高知出身、高知大学卒業です。名前は、父親の仕事にちなんで付けられました。父は、樹木のように真っ直ぐに育ってほしいと願ったとか、願ってないとか…。真っ直ぐとはいかなくても、周りにいる多くの方々に支えられながら自分なりに一生懸命進んでいこうと思っております。皆様に迷惑をかけることも多々あるかと思いますが、今後ともご指導の程よろしく願い致します。



歯科研修医  
とみ た り き  
富田 理生

出身大学は愛知学院大学で、今年の春から地元である高知県に帰ってきました。

早いもので研修が始まり半年が経ちました。日々学ぶことが多く、自分の力不足に悩まされながらも、周囲の方々に支えられ充実した研修をさせて頂いています。これからも多々ご迷惑をおかけすることがあると思いますが、精一杯頑張りますのでご指導の程よろしく願い致します。

# 研修医 紹介



にしもと しょうた  
西本 祥大

生まれも育ちも高知市で高知大学を卒業し、高知大学医学部附属病院で働き始めました。高知から一歩も外に出たことのない温室育ち25年目です。ようやく研修医業務にも慣れてきたところですが、まだまだ未熟者ですのでご指導ご鞭撻の程よろしく願います。



ふじさわ かずね  
藤澤 和音

海のない長野県の生まれですが、高知大学に進学し、すっかり高知が好きになってしまいました。大学時代は合気道、ダンス、よさこいに軽音楽と部活を満喫し、今年から大学病院で研修させて頂いております。研修が始まって半年、だいぶ業務にも慣れ、充実した日々を送っています。これからも色々なところで世話になるかと思いますが、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしく願います。



はぎの こうへい  
萩野 紘平

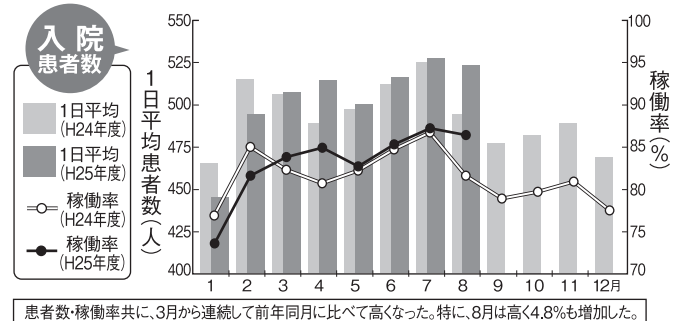
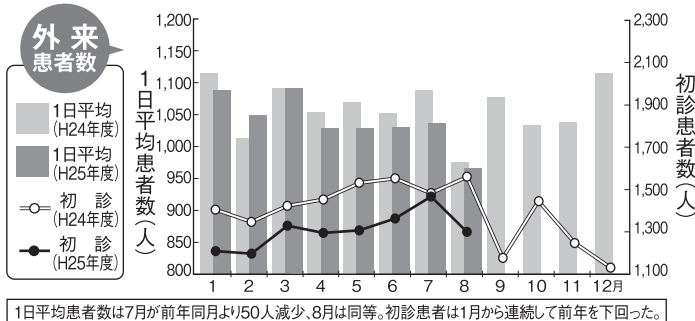
高知県出身で、高知大学医学部で6年間学び、今年から高知大学医学部附属病院で研修医として勤務しています。大学時代はサッカー部で主にハーフをやっていました。サッカーで培った持久力、協調性を活かして頑張りますので、よろしく願います。



みやもと ゆうや  
宮本 雄也

生まれも育ちも高知県、都会は怖いところだと思いつけて早25年経ちました。高知の医療に貢献すべく、高知大学に残り日々精進しております。まだまだ未熟者ではありますが、研修の2年間で確実な成長を遂げたいと思っておりますので、今後ともご指導のほどよろしく願います。

## 診療状況



## 編集後記

じぇいっ! 完成予想図4床室の図はすごいですね。木質調のフローリング、新緑に包まれたかのような壁色、腰付障子を彷彿させるパーティション。和風テイストを加えた室内が、入院患者さんだけでなく医療従事者の心も和ませてくれそうです。ということで建設中の新病棟は来年11月末完成予定で、引越し後の本格稼働は再来年1月ということでしょうか。病院再開発第一ステージは目下順調のようで、お二人の新しい教授をお迎えし診療体制の

ほうもさらに盤石の基礎ができてつつあります。新しい研修医の先生、よろこそ高知大附属病院へ。今年度は10人に満たない寂しい数ですが、次世代を背負って立つ若者の成長を、今後彼らのお世話になるであろう私達がしっかり応援していきたいと思えます。どうぞみなさんよろしく願います。閑話休題。改めて病院再開発スケジュールをみると、すべて完了するまでにあと6年。その時ここにいるのかなあ。人間到處有青山。(文責:小松 直樹)